

東京大学卓越大学院トライアル

「海外拠点ネットワークを使っての院生グループワークの支援」報告書

総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程

牧田裕美

2017年11月5日から20日の16日間にかけて、UTokyo LAINAC が主催した Mexico Month のうち、Field Excursion to Oaxaca, Academic Tutoring Session, Mexico Presentation Workshop, UTokyo-COLMEX Student Meeting に東京大学卓越大学院トライアル（地域文化研究専攻）及びU Tokyo LAINAC の支援を受け参加した。

11月7日、8日、16日：Academic Tutoring Session

11月7日にメキシコ国立自治大学(以下 UNAM)でメキシコの左派運動の研究を専門とする Hugo José Suárez 教授と面談した。Suárez 教授はボリビア出身のメキシコ研究者であり、ボリビアを調査地とする私にとって、社会運動の専門家でありボリビアの事情にも精通している方に博士論文の方向性について直に相談できることは非常に有意義な時間であった。Suárez 教授には、主にインタビュー調査に関する質問を行った。これまではインタビューでなにを質問するのかに注意を払ってきた。しかし Suárez 教授からは、インタビュー対象者との心理的な距離感や、インタビューを行った場所が対象者にとって馴染みのある場所なのか、どのような立場として回答しているのか、これらの言葉には表れない背景を考慮しなくては回答の意図も意味も解釈できないとのアドバイスを受けた。同じ情報提供者であっても、質問者との関係性が変化すれば回答内容も異なるが、それも含めて何を信頼できる情報として取捨選択するのかは研究者の技量にかかっているとのことであった。これまではインタビューでどのような回答が得られたのか、に着目してばかりで情報提供者と質問者との心理的な距離感まで考慮できていなかったことを反省するとともに、今後のインタビュー調査の際にはこれまで以上に周囲の環境も含めて観察対象とするという新たな課題を得ることができた。



(Suárez 教授との記念撮影)



(COLMEX の学生たちと)



研修中の業務で特に印象に残っているのは、エル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学（以下 COLMEX）のジェンダー／セクシャリティ研究者、Karine Tinat 教授の民族誌に関する授業に参加したことである。LAINAC 主催の同教授のジェンダーワークショップ（2016年5月）に参加して以降、国際学会にてパネルを組み発表するなどの交流が続いており、今回の授業参加にも繋がった。本授業は、現

(Tinat 教授とその学生たち)

地調査で得たインタビューやその他の資料を用いて、いかにして民族を執筆するのかを、先行研究を読みつつ、参加者の実体験を交えて議論していくものであった。授業参加者はメキシコだけでなく、ボリビアやその他近隣諸国の学生で構成されており、各々の事例を先行研究の解釈と比較しつつ議論が展開され、事例ごとの違いや共通して見られる問題点などを含め全てにおいて知的好奇心が刺激される非常に良い体験となった。



16日にはCOLMEXにてメキシコ社会運動を専門とする Ilán Bizberg 教授と面談することができた。Bizberg 教授には、メキシコとボリビアの社会運動の連帯の形式が異なるのは何に起因するのか、過去の事実と、情報提供者が「事実」として認識したいものをいかに区別すべきかを相談した。これまではいかに区別するのかを念頭に置いていたが、情報提供者がなぜ「事実」と認識したいのか、それを明らかにすることが事実を明らかにすることに通じるだけでなく社会学者として

(Bizberg 教授との面談の様子)

の醍醐味はそこに注目することにあるとの回答を受けた。今後も研究の方向性に悩むことがあろうと、この回答を思い出すことで研究の原点とはなにかを思い出させてくれるような貴重な時間となった。

11月10日-13日 : Field Excursion to Oaxaca

Field excursion として訪れたオアハカでは、現在も座り込みを含む抗議行動が盛んであり、同行してくれた COLMEX の Diego Emiliano Jaramillo Navarro 氏の友人が1週間前に抗議行動の結果として交通機関が麻痺したことで旅程の変更を余儀なくされたことを教えてくれた。このように社会運動が日常に溶け込んでいる様子を体感することは、現地に訪れる最大の醍醐味であると再認識することができた。

(Oaxaca での field excursion の様子)



11月18、19日：Graduate Student Presentations at COLMEX

COLMEXにて「La situación de las mujeres en los movimientos sociales en Bolivia」(ボリビア社会運動における女性の状況)の題目で発表を行った。内容に関する質問だけでなく、構成に対するアドバイスなど、これまでのどの国際学会でも得られなかったような有益なコメントを多く得られた。今後の論文の投稿だけでなく、スペイン語での発表に関して学ぶことが多かった。今回の研修で得られた多くの学びはLAINACの企画なくして実現するものではなく、このような機会を与えてもらえたことに大変感謝している。今後もLAINACを通じて日本と中南米の学術的交流が盛んになることを祈る。また、本研修は卓越大学院トライアルの支援により実現したものであり、深く感謝するとともにこの場を借りて改めて御礼を申し上げたい。



(COLMEX での発表の様子)